



(修驗中御徒之御)

大分県修驗資料 (一)

金山文書

旧称「九重山金山坊」  
豊後玖珠郡九重町字蕨原 金山隆和氏所藏

松岡実編

才一部資料集

金山坊系譜表 (次掲文書により比較せしがために表を作る。)

代	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代
金山家伝	不 明	不 明	突 相	松 樹	壽 福	壽 宝	千 寿	耕 院	金 山	金 山	金 山	金 山
致年			正徳四年	享保四年	天明七年	文政七年	文政三年					
山中文書	明 壽	明 合	突 般	正 壽	壽 福	壽 宝	千 寿	金 山	(金 山 隆 和)	(金 山 隆 和)	(金 山 隆 和)	(金 山 隆 和)

九重山金山坊 (金山家伝) (金山家位牌による)

金山坊 一代二代ハ不明

三代 明護院 正徳四年死亡

四代 実相院 享保四年死亡

五代 松樹院 天明七年死亡

六代 寿福院 文政七年死亡

七代 寿宝院 文久三年死亡

八代 千寿院

九代 耕院

十代 金山伝

十一代 金山隆和

十二代 金山隆和

(山中文書) (九重町飯田支所所蔵)

(表紙)

一天正年中以來

往古ヨリ申伝簿

田野村方之事也

山中彦之丞撰書写

山伏金山坊元祖

豊前小倉領ヨリ山伏来リ疏黄山坊原

ニ住ス、初発明寿院法華山端ニ入也

金山文書

寿宝院

是ハ彦山下ニテ郡中村々ノ御

祈禱納メ申候

(金山文書) (九重町飯田高原(飯原) 金山隆和氏所蔵)

貫首公当秋御入峯御修行

扱又今般縁組

関白殿下之依台命役僧御被為登

○以勝手向御逼迫ニ付為御手伝

白銀三拾枚乞獻納以御褒詞者

○而○及沙汰以仍而執達如伴

英彦山執事

天保十五年辰十二月 正廉院法印(花押)

玖珠郡九重山

金山坊

修験中御掟之事

一峯中甚深之秘事対末修行之人

並他派輩濫不可有口外事

一修験衣鉢不混究他派可守古法事

但諸国之御末派之輩三峯

修行と申名目を立候由至而不案

内之儀ニ候当道之修練所者六峯

◎中略以下「人別控」の内より

山伏菅人 天台宗

九重山金山坊権律師

疏黄山

(玖珠郡九重町飯田支所所蔵)

〔天保九年三月村銘細帳所收書〕

二代明合院此院彦山端ニ成楮原ニ下  
リ、三代目実般院者森治郎右衛門長  
男山伏之養子ニ成、四代正寿院、五  
代寿福院、六代寿宝院、七代千寿院  
八代金山伝山伏止メ、

壹ケ所高サ千式百間、惣廻リ三千式  
百間、此御山上リ燃申所ヲ九重山太  
明神ト崇申候、且又守山伏金山坊権  
律師寿宝院ト申候、而麓村内ニ居申  
候、右疏黄山去未七月ヨリ子六月迄  
中年五ケ年御願申上速見郡別府村繁  
右エ門御請負仕候、但御運上銀管ケ  
年ニ付銀五百五拾参匁六步並銀六拾  
六匁壹步御林下草刈運上納仕候尤モ  
山方稼之儀者不依何事村方ニ不構致  
シ来リ申候

と申候胎金蘇悉地之修行

と、可申候就者六峯之内出州

羽黒山、

高祖開基之儀他派、二不分明

今世者秋之一季令修行候由

当山本山者三季之修行有之候

処數百年餘断絶候を聖宝

再興有之者後も三季茂稀、二者

有之候由、二候得共終、二者

後醍醐帝御宇当山本山共、二

中絶候享祿之比又々再興有之

其後如何、候哉於英彦山者大宝

已來三季無懈怠令修行誠以

本朝無双之修驗所、而候依之

英彦山、江所伝之古來伝を以

公儀、江申上候得者元祿九年

修驗別本寺之印証を被下

有來通他派混、〇有之

間敷之旨承

公命候事

一御〇法勿論相背申間敷候事

一対檀越可修正法之祈念也利己

渡世之邪法不可用之事

一法中不相応之行跡無之様可相嗜事

右之条法古來相定事、二候処

近年猥、二為之由、二候触下頃相〇候

招可申來旨今度依

貫首公仰如件

安政三年辰十一月

英彦山執事大先達法印

口伝灯大先達法印

大謙院賢相

伝灯大越家法印 (花押)

正隆院徳宗 (花押)

豊後園

九重山

梵鐘寺、銘曰

豊之后州玖珠郡飯田郷田野

村九重山星性院幸水寺金山

坊洪鐘銘、並序

夫推推之起遠自仏世昔大迦葉擊

之于須弥名集聖衆以結法蔵自時

厥後印度支那記伝所載其救倒懸

拔苦趣之跡昭々晰々豈俟余言乎

于爰〇〇〇欲修營之不能自力是

信心檀越檀越隨喜是苦四方于是

諸善男女戮力喜捨資財鑄法已成復

構高矮懸之來間銘于余々銘曰

倚歎推推 無上法器 外内円息

冥合真智 撞之擊之 即広長告

遍大千界 作微妙説、其二、善士等言議

法鐘己成 懸之高閣 永利郡生、其三

文政三年歲在庚辰四月

現住寿福院清調発起

徒寿宝院清行輔佐

田野村庄官

世話人 橋爪茂助惟次

時松庄兵衛義親

甲斐弥四郎祐行

施主 別府計屋

安部繁右衛門通安

当村前庄官

橋爪弥惣兵衛惟治

治工 府内駄原邑

植木政次郎

藤原政富

惣且家中志  
但 口差渡シ壹尺七寸

厚 貳寸壹分

高サ 參尺參寸六分

廻リ 五尺壹寸七分

右之通相違無御座候 以上

安政三辰年六月

英彦山惣持院靈仙寺末寺

九重山幸水寺

金山坊

以書付奉申上候口上之覚

一、此度御寺院之梵鐘本寺並古來之名

器當節時鐘ニ相用候分御除其大

砲小銃ニ鑄換被仰出候ニ付

御公儀江可奉差上御請書差出候様御

触達之趣奉承知候。然ニ當寺之儀ハ

本山英彦山ヨリ 當国触頭役被申付置

候。本山同一処之掛所ニ御座候。其

上疏黄山之祈念所ニ御座候。而折々

山荒大風地震等仕耕作之差支ニ相成

リ村民及難波候節趣梵鐘ヲ鳴シ抽丹精

金山文書

祈念仕山靈之贖ヲ鎮メ申儀ニ御座候者

何分右梵鐘奉差上候而ハ右修驗之法モ

難相動大ニ迷惑仕候儀ニ御座候。何卒

格別之御勘弁ヲ以當寺之梵鐘ハ御除被

成下候ハ、難有奉存上候。此段宜御聞

濟之程偏ニ奉願上候 以上

英彦山靈仙寺末

玖珠郡田野村法頭職

九重山幸水寺 金山坊 ㊦

清 峰 (花押)

安政三年辰五月

池田岩之丞殿 御役所

差出置一札之事

金山坊

御村方疏黄山去ル酉年ヨリ当丑年迄五

ケ年之間縫殿ニ殿半兵エ受負稼方之内

式歩五厘丈歩方御任被下換又五厘別段

御加江被下都合三歩丈稼方仕候処当年

季明ニ而明寅年ヨリ御村方ニ而稼方可

被成由就而者拙者歩方御断ニ相成承知

仕候。然ル処各方江押而御頼談申上候

処明寅年ヨリ午年迄五ケ年之間縫殿ニ

殿御名前之内壹歩丈之割合御談可被下

様御熟談被下忝承知仕候右者格別之御

談ヲ以御取計下候儀ニ付午年季明之節

跡歩方之儀決而御願申間敷候

且日田表ニテ別段内願仕御内意等有之

候様之取計一切致間敷候依為後年一札

差出置候処如件

慶応元年丑十月

日田郡竹田村

庄屋 次郎兵エ

右村証人

組頭 久 平

仲人

右同断 田野村 仁右エ門

右同断

千寿院

右同断

組頭 庄兵衛

田野村

庄屋

同村

助左エ門殿

受負人 縫殿二郎殿

大沢村

右同断 半兵 工殿

此案文本書一回

御返事被下

正一位稻荷大明神安鎮之事

右難為本宮之奥秘依

各別之願望略式修封

之 嚴鑿今授与焉

祭祀慎之莫怠也

慶応三年三月豊日 正官目代

從四位上伯耆守〇〇〇信〇

豊後玖珠郡田野村

幸 水 寺 殿

新 兵 衛 殿

忠 作 殿

九重社由緒書上記

豊後国玖珠郡 田野村

字蘇原

一、九重社

所祭神綏靖天皇

本縁記者大友兵乱之時燒失仕候

社地境内除地御座候

大祭 毎年十月十四日十五日

観音安置御座候

鰐口一ツ御座候

梵鐘一ツ御座候

境内之仏像仏器右之通御座候

(附箋) 〇上部ニアリ

〔此観音並鰐口梵鐘早々可取除事

撰社

字鍛冶屋

一、若宮八幡宮 九月十九日小祭

所祭神大鷄鷄命

字下之畑

一、祇園社 六月十五日小祭

所祭神素盞鳴命

(附箋カ) 〔八阪神社ト被改候事

日田県社寺局

一、稻 荷社二月初午日小祭

所祭神倉稻魂命

字大地獄

一、水神社 二月二十五日小祭

所祭神水分神

一、山神社 四月五日小祭

所祭神大山祇命

字山石ノ上

一、愛宕神 十月十四日小祭

所祭神火具都智命

字定向

一、稻荷社 二月初午日小祭

所祭神倉稻魂命

右者今般御取調ニ付社伝旧記趣書言

上仕候

奉仕者

豊後国玖珠郡田野村

英彦山直末九重山

準先達権大僧都法印

金山坊清雲事還俗

金山 伝 清原清之

同弟子泉水坊法真事還俗

出 水 重

同財行坊文都事還俗

財 津 栄

おことわり

本稿は体裁その他読み等に他少の訂正を加えた編者におわびいたします。(中野)